

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 ごきげんちっち

事業名 親子のためのおむつ外しお助け事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A:計画を上回って実施できた B:計画どおり実施できた C:計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A:達成できた又は達成に十分つながった B:達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C:達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A:制度の目的に十分に寄与するものだった B:制度の目的に多少は寄与するものだった C:制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A:様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B:小規模ではあるが一定のPRが行われた C:PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A:外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B:外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C:外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A:団体として具体的な計画を立てている B:団体としての動きが多少ある C:継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

同じ時期の子どもを持つ親同士が集まり、情報共有ができる場は大変心強い。末長い活動を期待する。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 メジカラネット

事業名 足元から考える若葉区の災害時バリアフリー～高齢・障がいなど多様なく要支援>に目を向けて～

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

特別サロンの内容に関しては充実していた。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 都賀の台おにぎり倶楽部

事業名 【R3】みんなでごはんを食べる会【R4～】誰もが住み慣れた街で、永く健康に住み続けていくための事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

憩いの場となり、周辺地域にも好影響を与えている。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 加曽利貝塚ガイドの会

事業名 縄文紙芝居の作成・公演を通して、幼稚園児・保育園児、障がい者・高齢者が縄文文化に親しみを持ち、加曽利貝塚を中心とした地域史跡を大切にすることを養う事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

さまざまな場所に出向いて実施している点やFM放送を活用したPRなどは評価できる。
加曽利貝塚の新博物館整備後も、加曽利貝塚PRに大きく寄与することを期待する。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 みんなの里山

事業名 子どもの発達を育て多世代間交流のための自然ふれあい事業～ワクワクを愉しむ～

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

子どもたちが自然と触れる体験をすることは非常に重要。今後も活動を継続し、保護者や地域住民など地域全体で子育てをしていただけることを期待。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 NPO法人アワーズ美助っ人クラブ

事業名 ウォーキングで地域づくり

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

自分が住む地域の歴史を知るとは、その地域を好きになることにつながる。今後、多くの世代の方々に声掛けし、小さな発見を共有しながら、元気の輪が広がることを期待する。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 NPO法人ちば環境情報センター

事業名 【R4】谷津田ビジターセンター はじめの一步【R5】ようこそ谷津田へ 谷津田の食・農・自然・くらしを丸ごと楽しもう

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	A
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

活動が活発であり、他団体との交流も積極的。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 さとにわ耕園クラブ

事業名 炭窯再生プロジェクト

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区の大きな魅力の一つである里山を活用し、伝統を継承していくことは、SDGsの観点からも重要な活動。今度、商品化の検討等を含め、若葉区の魅力PRに長く貢献していただきたい。